



新明倫

鍛英親
錬知愛

高鍋西中学校
学校だより
平成29年6月22日

6月は各学年ともキャリア教育の一環として、総合的な学習の時間に校外から様々な講師に來校していただいて、多くのことを学びました。

3年生 6月は福祉について学ぶ

3年生は6月を福祉月間として、地域の方々を講師に招いて様々なことを学びました。

1日(木)・視覚障害者の講話、演奏の鑑賞等

・社会福祉協議会からの講話

8日(木)・車いす体験、アイマスク体験、

高齢者疑似体験

・社会福祉協議会からの講話

15日(木)・認知症サポーター養成講座

このうち「認知症サポーター養成講座」では、前半に体育館で、高鍋町の現状についての説明、認知症を正しく理解するための講話、寸劇を交えての短期記憶障害についての説明を受けました。後半は各教室に分かれて、認知症の人への接し方などについて説明、介護者へのインタビューなどがありました。

福祉教育のめざすものは、年少者も高齢者も、障害のある人もない人も、すべて人々がこの社会の中で誇りをもって心豊かで幸せな生活を送ることができるようにすることです。将来地域社会の一員となる生徒たちに、今月はとても大切なことを学ばせていただきました。このような機会を提供していただいた、社会福祉協議会、視覚障害者福祉会、包括支援センターの方々、地域コーディネーターの平野直美さんに心より感謝いたします。



2年生 文化祭に向け準備始まる

2年生は5月の修学旅行で沖縄に行き、民泊(地元の方との交流)や平和学習、観光などについて、体験的に学びました。学習したことを秋の文化祭で、4つのグループ(プレゼン発表、エイサー、群読・ハンドベル、資料発表)に分かれて発表する予定です。

エイサーについては、15日(木)から平山基史さんを中心とした「創作エイサー 高鍋しんかちゃー」の皆様にご指導していただいています。ご多忙の中に来校していただいているご指導に本当に感謝しております。

総勢40名近くの生徒が、大太鼓、パーラック(小太鼓)、獅子舞に分かれて「ミルクムナリ」を踊ることになっています。とても勇壮な踊りです。ぜひ、文化祭での発表をお楽しみにしてください。



1年生 児湯の神話について学ぶ

15日(木)に神話のふるさと県民大学「記紀みらい塾」大館真晴先生(宮崎県立看護大学教授)の講演「古代の児湯郡の物語」が本校で行われました(6月16日付け宮崎日日新聞に掲載)。総合的な学習の「高鍋調べ」の一環として、高鍋にまつわる神話のいろいろな話しを楽しくお話していただきました。

その中では、西中の校歌の歌詞にある「明倫」について解説があり、高鍋秋月藩明倫堂から由来していること、孟子の「人倫(人の道)を明らかにする」という意味、明倫堂は武士だけの学校ではなく、農民・町人等の庶民にも入学を許し学問をさせたことなどが話しの中でありました。また、日本書紀の中で「日向の国」(宮崎県)が東の方向の海に太陽が昇る様子から名付けられたこと、それが西都説・日向説いろいろあることが紹介され、「児湯郡」の地名が「景行天皇の「子湯県」に奉して…遊びたまふ。」という部分から見つかり、さらに「久湯」という表記があることなども教えていただきました。

神話を教材として、記紀(古事記・日本書紀)や身近な地域の由来などについて学ぶ楽しさを教えていただきました。大館真晴先生、本当にありがとうございました。

